

# みなとメディアミュージアムによる

## 那珂湊第一小学校でのワークショップ報告書

平成 27 年 9 月 10 日

### 概要

開催日時 : 6 月 26 日 授業 2 コマ

場所 : 那珂湊第一小学校

内容 : 5,6 年生の合計 4 クラスの児童を 3 グループに分け、3 つのワークショップを同時並行で行った

企画 : みなとメディアミュージアム(MMM)実行委員会

展示 : 8 月 9 日～30 日 アートイベント: みなとメディアミュージアム 2015 にて



### 目的

美術のワークショップで必要とされる能力は、通常の図工美術の授業で学ぶこと（鑑賞の能力：発想や構想の能力・創造的な技能）だけでなく、「課題を理解して対処する力」や「複数人で協力して作業する力」も含まれる。

本ワークショップの目的は、子どもたちの創造性やデザイン能力、そして自分の「まち：那珂湊」に対する豊かな感性を育むことである。そして、作業を通じて他の子どもたちや

MMM 学生とのコミュニケーションを育むことで、自己表現や他人の考えを想像し、尊重することを学ぶことを設定した。

” 図工美術で、「思考・判断・表現」に該当するのが「発想や構想の能力」、「知識・技能」に相当する「創造的な技能」です。「鑑賞の能力」は「思考・判断・表現」「知識・技能」を一体としたものです。図工美術は表現と鑑賞を通して学力を育てます。それが最終的に学校教育法の学力に貢献することが求められるのです。”

学び！と美術 <Vol.03> 「子どもの学力が伸びる」という「言説」 奥村 高明 (おくむら・たかあき 国立教育政策研究所所属)

<http://www.nichibun-g.co.jp/column/manabito/art/art003/>

そして、みなとメディアミュージアムの掲げる地域活性化も大きな目的である。親とのつながりが強い小学生児童を対象とすることによる、親、子供、そして MMM に関わる地域の人々とのつながり、ネットワークの強化を狙いとした。

## みなとメディアミュージアム公式 HP での報告記事

■6月26日 那珂湊第一小学校にて出前授業を行いました!

<http://minato-media-museum.com/0626-minato1-ws/>

■こどもたちの「ヒミツの場所」とは? 43による『10maps』制作秘話

<http://minato-media-museum.com/43-10maps-ws/>

## 企画内容

### ① MMM スタッフの企画による「みなとのひかり」



#### 概要

那珂湊の生物をかたどった切り絵（魚やタコ、イカなどの海の生き物の他、大ちゃんくじらや駅猫おさむなど地域の名物も取り入れたもの）に蛍光塗料を使った塗り絵を行い、展示した。吊るされた絵にブラックライトを照射して光った絵を鑑賞した。

## 狙い

実際の生物とは異なる色の絵を塗ることや、道具の準備、色塗りの段取りを考える中で生まれる共同作業が創造性を刺激すると考えた。また、自分たちが制作・展示・鑑賞の一連の流れを体験することで、製作者の立場から鑑賞者の立場を理解し、自分の制作物を相対的に観ることができると思った。

## ② MMM 参加作家 榎本奈々子による「Like unrequited love」



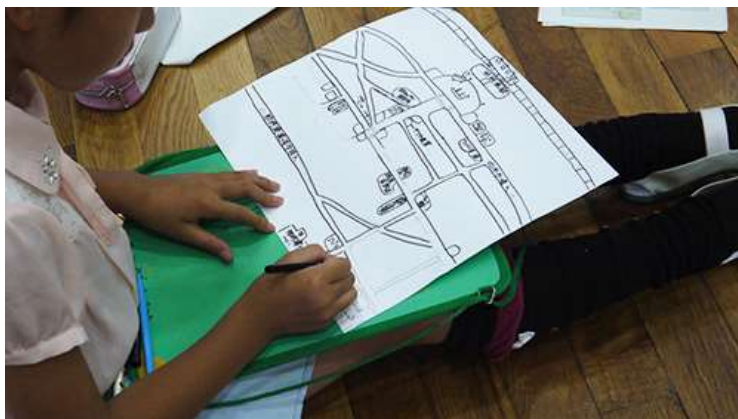
## 概要

読み手を特定しない「宛名の無い手紙」として、読み手のことを想像しながらフィクション・ノンフィクションを織り交ぜた文章を書いた。児童はスタッフとのコミュニケーションを通じて引き出された様々な体験、出来事、思いを手紙に書き起こしていった。一通目の手紙手紙は児童間で匿名状態で交換され、二通目を書くに当たっては誰のものともわからない手紙に対する返事を書くという特殊な体験を行った。

## 狙い

あえて読み手を特定しない手紙を執筆することによって、手紙には「書き手」と「読み手」がいることを理解し、読み手を特定しない手紙を書くことで、手紙を書く「自分」と自分ではない「他者」の視線を意識することを目的のひとつとした。自分ではない誰かに、自分固有の経験や想いを伝えようとする中で、自分がいまだ出会っていない誰かと繋がることということも狙いである。

### ③ MMM 参加作家グループ「43」による「10maps」



#### 概要

作家グループ 43 が WS 運営に実際に関わった企画である。

自分の住むまちについて、自身の経験を元に思い入れのある場所を大きな地図をもとに話し合いながら探し出し、その「ヒミツの場所」を地図と文章で表した。地図は作家がイラストも交えた絵画的なものもサンプルとして示し、無機質な地図にとらわれない多様な地図の制作を促した。

#### 狙い

「お気に入りの場所」を文章で表すことで、お気に入りの理由や、その場所での経験を他人にわかるように説明する能力が身につくと考えた。また「お気に入りの場所」を地図で表すことは、記憶を頼りに、また地形図を見て、自分が行ったことのある場所を地図に書くことであり、空間把握能力や、デフォルメの技術を学ぶことに繋がると考えた。

一方で「自分の秘密を共有する」など、児童が自分の内面を意図して探ることで、自己表現に通じる体験を行うことができた。また、自分の記憶をもとに街とのつながりを強く再認識することで、改めて自分の住む街の魅力を考えることにもつながった。

以上のように、児童が自ら未知のものを想像したり、記憶をたどったりする内容を盛り込んだ。どの課題も、児童の想像力を掻き立てる素材を用意し、作品を作り上げていく形式とした。

## アンケート結果

WS 後に児童全員にアンケートをとった。

光る魚の塗り絵「みなとのひかり」について、WS を通じて那珂湊に対して感じたこととしては、

- ◆ 「湊は魚がいっぱいいるからやるんだと思った」
- ◆ 「那珂湊は魚が有名だと感じた」、「魚がたくさんいることがわかった だいちゃんくじらがゆうめいだと分かった」

など、那珂湊の魚という地域資源を意識したコメントが見られた。光る魚の塗り絵という楽しいアート制作活動を通じて、地域の魅力に気づいた子供たちがいたこともわかった。

「Like unrequited love」については、

- ◆ 「知らない人から手紙？返事？と思ったけれど、やってみると、こういう手紙こうかんもおもしろいなと思いました。」
- ◆ 「知らない人の手紙を読んでみて、いろいろなことが書いてあったのでよむのが楽しかったです。」

自分の知らない人の手紙を読むというコミュニケーションの面白さに気づいた子供たちが多かった。

「10Maps」については、

- ◆ 「最近あまり行かなかった場所をいろいろと思い出せて楽しかったです。」
- ◆ 「ヒミツの場所での地図で、イラストや、アレンジを加えたのが楽しかった。」
- ◆ 「みんなときょうりよくしながらかいたこと（が楽しかった）」
- ◆ 「みんなでそうだんして色をぬったり地図をかいたりして楽しかったです」

など、協働作業の楽しさを挙げる子が多く見られた。

特筆すべきは、

- ◆ 「地図を書くときあらためて那珂湊のいろんな所が分かることができた」
- ◆ 「地図をつくってみて、いろいろなお店などがあることが分かった」
- ◆ 「地図をかいている時にひたちなか市がこんな広いということが感じられました。」と街のことを深く知り認識するプロセスが見られたことだろう。
- ◆ 「那珂湊の他の場所も機会があれば調べたいなと思いました。」

更に街に対して興味を持った児童もいたことがこのワークショップの成果といえるだろう。実際に作家グループ 43 のメンバーがワークショップ運営に来ていたことも大きく、非常にワークショップの完成度も高かったことが大きいだろう。

## 展示結果・結論

各作品すべてが会期中に街中に展示された。「みなとのひかり」は光る魚のインスタレーションとして百華蔵に展示した。



「Like unrequited love」は、那珂湊駅付近の車両ケハ 601 内に子供たちの手紙を含め、作家本人の手紙や来場者が書き加えた手紙も展示。ワークショップの内容を追体験できるような形で展示した。



「10maps」はお魚市場近辺のガレージ内を展示の会場とした。子供たちの地図が壁に設置され、また街の大きなまちの航空図には子供たちの秘密の場所がマッピングされている。子供たちが描いた地図は縮小版を用意し、来場者が持っていくことができる。子供たちの純粋な目でまちの魅力を表現した地図を手に取り街を歩くことで、子供たちの街の捉え方を感じることができる。



各々、まちの子供たちの作った作品として高い評価を受けており、特に「10maps」についてはMMMの地域賞である「まちづくり 3710 実行委員会賞」を受賞した。

まちづくり 3710 実行委員会賞：選評

“街づくりの原点はコミュニティです。地域の子供たちと連携をとり、地域の良さを引き出す取り組みは素晴らしく感じました。地元の子供たちが推薦する観光スポットは間違いないですよ！企画は大賞に引けを取らないと思います。今後も頑張ってください。”

このワークショップを通じて、作品が街の魅力を外部に伝えるとともに、内部としては子供たちへの教育的効果（芸術に触れ、アートを身近なものに感じることや、作家と実際に触れ合いモノをすることで、得られる新しい視点や体験）があったのではないかと考える。ミュージアムへの身近さはアートの効果を享受することにつながる。アートの効果とは、美的感覚を養うことだけではない。自分の視点だけではなく、相手の考えを想像すること、もしくは大局的な視点を獲得することにつながる。また、問いを発見し、自分で解決する力を養うことでもある。

徐々に現れるだろうその効果への期待を寄せ、来年度以降もまた完成度を高め学校でのワークショップを行っていきたいと考える。

最後に、那珂湊第一小学校の先生方、ならびに生徒の皆様からの暖かいご協力によって今回のワークショップ充実した内容にすることができました。この場をお借りして、謝辞を記させていただきます。